



# 平成23年度施政方針

第39回養父市議会定例会が2月22日に開会し、広瀬市長は平成23年度の施政方針として、厳しい財政状況の中での、まちづくりの方向性や重点事項について述べました。  
今月号では、この内容（一部抜粋）をお知らせします。

養父市が市制を施行しましてから早いもので、この4月より8年目を迎えるところとなりました。

これまでの市行政の運営につきましては、財政基盤の安定化に重点を置いた取り組みを進めてきました。そのため市民の皆様には様々なご負担をおかけしてまいりましたが、危機的な財政状況からようやく脱出できる見込みがたちました。

しかし、財政基盤の脆弱さに変わりはありませんので、引き続き気を緩めることなく財政健全化に向けた取り組みを行っていく必要があります。

また、この7年間の行政運営は

必ずしも守勢一辺倒ではなく、将来に向けたまちづくりの取り組みとして、着実に歩みを進めてまいりました。

平成21年制定の「養父市まちづくり基本条例」、「養父市市民憲章」、21年度から取り組みを進めていきます「地域自治組織」の組織化へ向けた取り組み、21年度から22年度にわたり市民委員さんと協働により策定に当たりました「第2次養父市総合計画」、さらに「地域担当チーム制」のスタートなど、養父市のまちづくりを行う骨格となるべき仕組みを整えてまいりました。

「第2次養父市総合計画」は、こ

れまでの計画をリニューアルし、養父市のまちづくりを行う上での最高規範ともなる「養父市まちづくり基本条例」に基づいた計画としました。地域コミュニティを中心に据えたまちづくりを行い、さらに飛躍するまちを目指し、将来像を「響きあう心世界へ拓く結の郷やぶ」と定めました。これを具体的に表すために副題として「学びと交流と居住のまち」を掲げ、

養父市に住みたい、住み続けたいと体感できるまちを目指すための仕組みを検討するため市民委員21名と職員が18回にわたる会合を開催し、意見を集約して計画書としてまとめあげたものであります。

これにより、「養父市まちづくり基本条例」、「第2次養父市総合計画」、「地域自治組織」が平成23年度を前にして養父市まちづくりとして揃いました。

これらを軸としながら、養父市が一番住みやすく、いつも温かい灯りがともるまちをつくり上げて行きたいと念じております。

市民の皆様、議員の皆様におかれましては、まちづくりの協働のパートナーとして養父市づくりにご協力とご支援をいただきたく存じます。

平成23年度の具体的な取り組みにつきましては、第2次総合計画で示しています5つの柱によりご

説明申し上げます。

### 1、生きる力を生涯学ぶまち

養父市の豊かで安らぎを感じさせる自然は、子育て世代にとって魅力的な環境にあります。

また、市内のお年寄りには次世代に伝えるべき知識、技術、経験を有しており、これらを活用する場を求めています。このように市内には豊富な自然やこの地に暮らす人々が先祖から受け継いできた生活の知恵や知識、地域の伝承や歴史的な文化遺産などの資源がまだまだたくさん埋もれています。

このような地域資源を活用し、日常生活の中から生きがいや楽しみ、誇りを持つて生きる力を学ぶことができるまちを目指します。

この柱では教育環境づくりに力を注ぎたいと考えております。

そのため、これまでから進めてまいりました幼保一元化に向けた取り組みを一層強めてまいります。特に養父保育所では施設が狭溢なうえ老朽化が著しいため、グンゼの用地の一部を取得し、新たに養父保育所と養父幼稚園を統合した養父幼児センター（仮称）を建設し、幼保一元化を進めサービスの充実を図ります。



葛畑区に伝わる伝統芸能のこども歌舞伎

また、これまで子育て環境の実を図るための施策として、学童保育と放課後子ども教室を健康福祉部と教育委員会が別々に所管してきましたが、新年度からはこれらを合わせて教育委員会の所管とし、放課後子どもプラン（学童保育、放課後子ども教室）として互いに連携しながら、なお一層の充実を図ります。

この柱の中でもう一つ力を入れた取り組みがあります。

それは人に優しく、地球に優しい環境を取り戻す取り組みです。これからの社会は量から質への転換が求められており、動植物と人が共生できる自然環境を大切に



大屋町宮垣に飛来してきたコウノトリ

した農業生産が食の安全と健康につながることであり、ひいては生きる力を生涯学ぶことにつながります。動植物との共生のバロメーターとして豊岡市や佐渡ではコウノトリやトキの自然回帰が取り組まれています。

養父市でも昭和の初め頃までコウノトリが天空を舞う姿を多くの人々が眼にしており、「つるみ」などの呼称が伝わる地域も残っています。往年の、鶴が天高く舞う姿を取り戻すため、平成24年4月のコウノトリ放鳥を目指して餌場となるピオトープ水田の造成、飼育ゲージの設営等の拠点整備を伊佐地区に行った後、管理人を置き

ゲージ飼育を行うなど、コウノトリと共生できる環境づくりに取り組みます。

同時にコウノトリ育む農法による栽培面積の普及・拡大を図り、環境創造型農業の実現を図ります。また、大屋地域は、おおや高原の有機野菜に代表される有機農業をいち早く取り入れ、有機の里づくりに積極的に取り組んできた地域であります。

この大屋地域で開設されます「おおや有機農業の学校」の支援を行い、安全・安心、良質な有機野菜づくりを広く市民や養父市を訪れる人々に普及するため、学びの場の提供を行い、養父市プランドにつながる取り組みを行います。

### 2、人と自然と文化を活かし、多くの人が訪れるまち

養父市の最大の課題であります人口問題につきましては、その対応のための資源として、養父市にあります空間スペース、埋もれている文化遺産、自然が織りなす四季折々の景観美、人々の暮らしの中で培われた生活の知恵など、様々な資源があります。

これらに養父市の財産として光を当て、養父市の魅力を高める必